

# 但馬道 (生野道・馬車道)



生野鉱山寮馬車道

律令時代、中央と地方諸国を結んだ幹線道路は7本ありました。兵庫県にはそのうち山陽道と山陰道の2本が走っていました。当時、都から但馬へ向かう正式な道は山陰道でしたが、『播磨国風土記』には、山陽道を通って播磨に入り、そこから但馬へ向かうルートが古くから成立していたことが分かる記述が数多く見られます。これが但馬道(生野道)です。特に、生野銀山が開坑すると、銀の流通ルートとして重要性が高まりました。明治時代になると、生野銀山は国営化され、より効率的な銀の産出が求められるようになります。そこで銀を産出するための機械や物資、精錬された銀を運搬する道として整備されたのが「生野鉱山寮馬車道」(通称:銀の馬車道)です。馬車道は“日本初の高速産業道路”として、経済産業省の近代化産業遺産に認定されています。

